

## 夢と地域を結ぶふるさと創り

—子どもたちに自慢できる故郷を—

社西公民館

### 1 社西地区の概要

社西地区は、昭和43年（福井国体開催年）以後、市内外・県内外よりの居住者が大幅に増えてきて、昭和58年に社西小学校が開校するとともに、地区の形ができてきた。平成3年4月には、社南・社北地区より分離し、社西公民館が開館した。その当時は、人口6,061人、世帯数1,869戸、高齢化率12.1%であったが、平成27年2月には、人口5,933人、世帯数2,269戸、高齢化率30.3%、（福井市平均26.6%）となり、他地区と同様に高齢化率が高くなってきている。

当公民館は、福井市で49番目にできた公民館であるが、そのために、地区住民の「ふるさと創り」への思いは強く、現在もその強い思いが地域活動を支えている。

### 2 ホタルの飛び交うビオトープ・狐川



【源氏ホタルの幼虫の放流】

#### (1) ビオトープをつくろう

社西小学校の総合学習がきっかけとなり、平成12年に、社西小学校内にビオトープをつくる計画が立てられた。それまで、地区内にある「社西ふるさと創り協議会」が中心となり、「狐川にホタルが住めるようにしよう」という運動が続けられてきていた。その一環として、公民館でホタルの飼育などがなされていたが、十分な成果を得るためには、さらなる研究が必要ということで、ビオトープづくりの計画が持ち上がった。住民へのアンケートの結果、反対

はなく実現の運びとなった。

平成13年、社西小学校の子どもたちとの定期的な会議などを経て、まずは模型作りから始めた。作られた模型は、公民館まつりで展示され、広く住民にアピールすることができた。

#### (2) 住民の力によるビオトープづくり



【平成26年5月完成のビオトープ表示板】

きれいな水の確保と淀みない水の動きを考え、「井戸を掘る」ことから始めた。当初、完成までに4～5年かかるだろうと思われていたが、住民や業者、小学校の児童・教師、PTA等の協力と奉仕により、着工から8ヶ月で完成をみる事ができた。その間、延べ870名の人たちの手弁当での作業奉仕があり、住民の思いの強さを実感することができた。

現在は、有志の集まりである「ほたるの光、希望の光、夢のあふれる社西を実現する会」、略して「ほたる社西の会」が結成され、管理・運営に当たっている。また、社西小学校の空き教室を利用して、ホタルの幼虫を飼育し、毎年3月に放流をしている。時期になると、自生のものも含めて、多くのホタルがビオトープを飛び交っている。

ビオトープに作られた田んぼでは、社西小学校の児童による田植え等も毎年行われ、地域住民の宝として大事にされている。

#### (3) 狐川流域まちづくり協議会

狐川流域の木田・豊・社南・社西・社北・東安居の6地区で、「狐川流域まちづくり協議会」がある。

その組織には、公民館長をはじめ、連合自治会長や地区民（ボランティア）を含めた各地区4名のメンバーからなり、事業のひとつとして「狐川にホテルが飛び交う風景」の実現を目指し、研究に取り組んでいる。

現状を知るために、狐川の水質検査や生態検査を1年かけて行い、パンフレットにまとめることから始め、平成27年1月には研究会を行い、飼育して大きくなった幼虫を狐川の上・中・下流の3地点に50匹ずつ放流し、結果を観察している。

### 3 「ちもり一座」の活動

#### (1) 歴史と防災を伝える

旧社村は、東大寺領道守荘として、よく知られている。社西地区もその範囲に含まれている。その古い歴史を伝承していくために、当地区久喜津にあった「輪中」を取り上げ、広く住民に伝えていこうということで、学習を始めていくことになった。「輪中」とは、「河川の氾濫による被害を防ぐために集落を堤防で囲んだ構造にしたもの」である。

当初は、印刷物の配布という形で行ったが、なかなか浸透せず、劇にして見てもらうことで、より広められるのではないかという思いで、平成20年から「ちもり一座」の活動が始められた。「ちもり一座」は、現在、一般公募により集まった小学生や20代から80代までの住民、27～28名の座員で活動を行っている。公民館の館長・主事もその一員となっている。1ヶ月に1回例会を行い、公演が決まると週1回の練習を続けてきている。



【劇の一場面（福井市成果発表会にて）】

旗揚げ公演は、平成21年に社西小学校を会場に行い、地区住民、約300人が集まり大盛況であった。その後、社西小・社中・福井市の成果発表（3回）などで公演を続けてきている。

#### (2) 劇の特徴

平成23年には、「全国防災ドラマコンテスト脚本の部」で優秀賞を受賞した。講評では「この物語には、都市計画を住民が自分たちでつくったこと、災害から村を守る自主防衛の心構えなど、現代に通じる先人の知恵を読み取ることが出来る。今後の地域づくりに大いに参考になる。」と高い評価をいただいた。

劇は「今から297年前、村人は度重なる水害に怯えて村を捨てるか、水がきたらどこへ逃げるか、堤防さえあればなあと心配しながらも、大切な先祖の田圃は守らなければと思案に迷う日々を過ごしていた。そして、輪中の建設を決意した。工事開始から3年、久喜津村を取り巻く高い堤防、輪中が完成し、村は豊かな村に立ち直った」という内容で、地区の先人たちが苦勞して輪中をつくり、安心して耕作できるようにになった経過をドラマ化したものである。

### 4 おわりに



【公民館玄関の「ふるさと創り協議会」の掲示板】

昔のように沢山のホテルが飛び交っている風景を夢見、出来る限りの活動を進めた。その結果、ビオトープは、子どもや住民の大きな誇りとなった。「ちもり一座」は長編や寸劇も取り入れ、輪中だけでなく、社西の歴史を伝える活動をさらに続けていくことが大事であると考えている。

これまで、住民を巻き込んだ事業を展開してきて、多くの成果が得られた。特に、「人材の発掘ができた」「住民同士の交流ができ、地域への愛着を増すことができた」ことが大きい。今後も、子どもや若者が、未来に夢を持ち続け、誇りと思えるような地区づくりを住民一人一人が意識できるように、工夫・努力を重ねていかなければならない。

社西公民館が、地区住民の「ふるさと創り」に対する思いを的確にとらえ、それを地区住民の手で実現できるように支えてきたことが大きな成果となって表れてきたのだと実感できる。それが、地区住民のつながりを強くし、地区への愛着の醸成につながってきたのだと思う。